

かつきへ通信

貝殻技術を利用した
新たな環境改善の取り組み

護岸に生き物の棲み家を創出！

護岸工事において従来から整備されている垂直護岸は、凹凸が少ない構造なために生き物が生息する空間が乏しいことが課題となっています。そこで、大阪府

上げなどの継続的なモニタリングによって、魚介類が集まる様子や、魚の餌となる生物の発生といった生物生息環境の改善効果を検証していく予定です。

※本取り組みは『大阪府「豊かな大阪湾」環境改善モデル事業』の補助を受けて実施しています。

泉大津市内にある護岸施設で、貝殻施設を設置して生物生息空間を創り、生物環境の改善を図る取り組みが行われています。

使用した施設はタコツボを付けた小型貝殻ブロック（貝藻くん）と貝殻基質ユニットの2種類。前者は岸壁直下の海底に、後者は護岸の垂直面に、貝殻の重なりによって餌場や隠れ場などの生物生息空間を創り出すことが目的です。令和元年11月に施設は設置されており、今後水中カメラでの撮影やテストピースの引き



設置した貝殻施設

（小型貝殻ブロック、
貝殻基質ユニット）

近辺での同様の取り組みとして、大阪湾での護岸工事のイメージアップで、護

生物の豊かな 海釣り公園に

り組みは、設置3年後にはマダイ、アジ、キジハタなど

週末、家族連れをはじめ多くの人が釣りを楽しむために集まる海釣り公園。その海釣り公園内の栈橋近くにJFシェルナースを設置することで、藻場や餌場などの生物生息環境を整えて、より多くの人が集まる海釣り公園をつくる、そんな取り組みが千葉県市原市や福岡県北九州市で行われています。

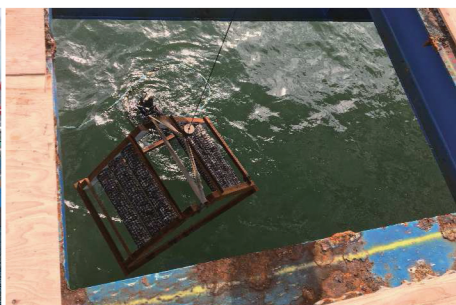
千葉県での取り組みは、令和元年10月に設置したばかりですが、福岡県での取

マダコを確認

岸施設にタコツボを付けた貝藻くんを設置。追跡調査では抱卵したマダコやエサ生物も発生し、良好な状況が確認されており、泉大津での取り組みでも効果の発揮が期待できます。



福岡県で設置されたJF シェルナース
海藻類（ツルアラメ）が繁茂



千葉県での設置の様子



抱卵したマダコ